

JAMCA ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.5

1995年4月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会

編集事務局 〒136 東京都江東区亀戸2-28-5

☎03-3685-6761 FAX03-3684-7420

専門士の称号を機に飛躍

入学者の多様化へ関係者は一層の努力

阪和鳳自動車工業専門学校校長 皆見 量政

専修学校は、昭和51年に創設以来多くの卒業生を社会に送ってまいりました。工業系をはじめ、八つの分野に区分され、各々様々な学科を設けており、その中の一つに自動車整備教育があります。学歴を重んじた時代の学校教育では、専修学校の目的である「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成または教養の向上を図る」と言うことには、あまり関心がありませんでした。

しかし、数年来、国内外の政治経済の目まぐるしい変化、従来の価値観を覆す多くの出来事に遭遇する中で、教育界においては、中途退学者、学校内暴力、いじめ問題など多くの課題を抱えております。

短大に数倍する役割

このような状況の中で、専修学校教育が近年とみに脚光を浴びてきております。例えば数的に（平成6年5月1日現在）専門学校と短期大学を比較しましても、全国の専門学校数は2,856校、学生数は約68万人で、短大とでは学校数で4.8倍、学生数で約1.3倍であり、高等教育機関としての役割は益々高くなりつつあります。

このことは、少しでも自らの能力と適性にあった学校を選択しようとするあらわれで、漠然と過ごすよりも、職業資格や技能検定を得るための学校へ、また最短コースでライセンスを、との実学指向、資格を取るなら専修学校へ、という認識が一般的になった証です。なお、専修学校の卒業生が実社会で高い評価を受け、大いに活躍して来たことにもよります。



当然、自動車整備学校もしかり、専門学校卒業生の業界での比重は高く、毎年約1万人を超える学生がディーラー等に就職し、職場ではなくてはならない存在となっております。中学校、高等学校での進学指導において、補助的存在であった専修学校が、一条校と肩を並べるまでに成長して来た起因は、社会ニーズを先取りしたカリキュラム、教材設備の充実、実技優先の教育等が各界から信頼されてきた結果であります。

これからも専修学校の特色を生かした教育内容の充実を図ることにより、これまでの教育体系では対応しきれない多様なニーズに対して、リカレント教育を含めたあらゆるケースに応える学習機会を提供し、生涯学習社会の構築へ向け、大きな役割を果たしていかなければなりません。価値観も多様化し、複雑化する社会において、人々の期待に応えられる専修学校となり、各職域を支えていくことは確実です。

このような背景のもと、平成4年5月以来進められて来た「専修学校の充実、振興に関する調査研究協力者会議」

の結果、平成6年3月に生涯学習局長あてに提出した「専修学校教育の充実、振興について（報告）」の提言に基づいて、生涯学習社会での専修学校の社会的立場づけの明確化と教育の充実と振興を図られるための設置基準の一部改正と、専修学校の専門課程の修了者に対する「専門士」の称号に関する規定が制定されました。

専門教育国際化に貢献

この規定によると①修業年限が2年以上であること②課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上であること③試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること。

「専門士」称号付与は、修了者の社会的評価の向上と、各人の自発的な意志によって個人の能力に応じ、何時、どこで学んでも評価される生涯学習社会の振興に役立つものであります。諸外国においては、大学以外の修業年限2年以上の短期高等教育機関の修了者に対し、既に称号等が付与されております。日本の専門学校教育の国際化を
(次ページへ続く)

■ CONTENTS ■

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 阪神大震災の影響
- 6面 協会トピック
- 7面 各校の行事紹介
- 8面 私の教授法